

# 違いを認め合う一歩は、ズレをきちんと見つめること。 そして、境界線を曖昧にしていくこと



**岸上 光克** (きしがみ・みつよし)  
和歌山大学食農総合研究教育センター教授

兵庫県伊丹市出身。和歌山大学在学中、「農業は廃れる」といった風潮も強いなか、「農業は素晴らしい!」と語る教授と出会い、農業経済学の道へ。大学院卒業後、市町村の福祉計画作成を担う会社や田辺市嘱託職員、水産大学校職員などを経て現職。主な研究テーマは、「一次産業や田舎の活性化」に関すること全般。会社員時代の経験や知識を活かし、農福連携に関する助言など、福祉と農業のつなぎ役としても活動する。

**Q** まず、岸上さんの主要な研究テーマからお伺いできますか？

**岸上教授(以下岸上)** 学生時代は、主要品目でわかりやすい米の転作を研究していました。転作は、田を畑に鞍替えすると奨励金が出る仕組み。ここに、農家さんの賢さが出るんです。例えば、枝豆を栽培すると「野菜」の奨励金ですが、枝豆って収穫しないと大豆になりますよね？すると奨励金の種類が「大豆」に変わるんです。作付けや気候などで変動する奨励金の多寡に合わせ、枝豆で収穫したり、大豆で収穫したり、身体と頭を使って生きる農家の強さを、現場に足を運ぶほどに感じてきました。

**Q** 一度少し話がそれますが、わっくるを手に取られた印象をお聞かせください。

**岸上** 一見して、カタログとしての完成度が高いなあ、と思いました。福祉と農業が並列なのがいいですね。届けてほしい人はもっとたくさんいるはず！ ゆっくり丁寧に作られるものは、障害のあるなしではなく、伝統工芸品のように、価格だけじゃない価値が認められて当たり前じゃないかと常々感じていて、その敬意でもいうものを、誌面から感じ取ることができましたね。

**Q** 福祉と農業の繋がりを、どんな風に考えていますか？  
**岸上** 一次産業あるいは田舎の活性化は、農業だけではないですよ。むしろ、田舎のコミュニティは、福祉とか子育てなんかと切っても切り離せない。そういう意味で、境目なく繋がっていると考えます。

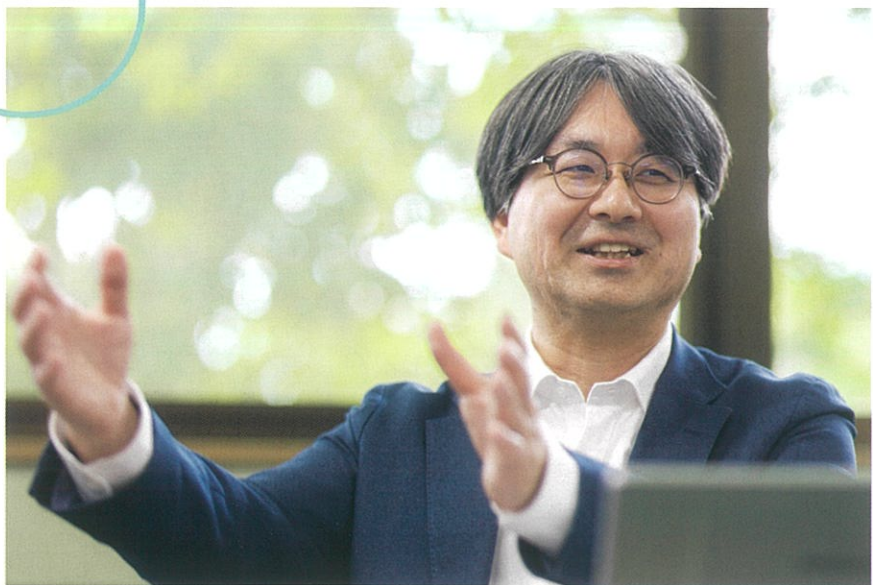
大学院卒業後、ちょうど、障害者自立支援法の前後で、

当化する人、その溝は深くなっている。

**Q** 私たちはその状況をどう超えていけるのでしょうか？  
**岸上** 必要なのは、社会的成熟かな。言い換えると、「知って」「当人の声を聞いて」「めんどくさくて」「当たり前」という感覚。たとえば、「障害のある人も暮らしやすいまち作り」なんてスローガンに、「それは普通やで、って言えるかどうか。構成員に応じて、学校から行政、国に至るまで、どんどん変わってほしい。」「当人らが言ったらその通りや、そうしよう」って。だって、誰もが暮らしやすいのが「まち」のはずだから、それが当たり前でしょう。

常々若い人の言うことには従った方がいいって思ってるんです。だって、時代を感じるセンサーは彼らの方が断然敏感だから。同じように、夫婦同姓で都合が悪い人がいるのだから、別姓の枠を作りたい。人口が減って、分野横断のまちづくりが必要なから、縦割りの行政制度を変えたい。

変更を阻むのは、極端にめんどくさがる風潮で、日本はとくにそうですね。現行の仕組み内でやりくりしようとして、そのねじれが悪い方悪い方に出ている。できないはずはないんです。めんどくさいだけで。そう思って事に当たれる人がひとりでも増えたら、行政や国もあるいは変わっていくのではないかと。そう思っていますよね。



自治体の福祉計画作成を手伝う会社で働いていた時期があるんです。国や行政の方針と、なまじ学部大学院とフィールドワークで染み付いていて拾ってしまう現場の声、あまりのズレに、悲しくて仕事にならない時期がありました。最近の「農福連携」も、担い手が足りない農業分野と働き場所を探す福祉が単純に結びつく、とはできないでしょう。一つの理想形は、障害のある人ひとりに農家

ひとりぐらいの手厚さだと思ってるんですが、それだけ農業が稼げるかという経営の話、福祉業界や各個人の状況に応じた具体的な体制作りというマネジメントの話：求められる視点は多いです。障害者がどう農家をサポートするか(福祉の話)でなく、農家がどう障害者をサポートできるか(福祉の話)、という感覚が妥当なのかな。

**Q** 福祉と農業、互いの分野を横断する視点の大切さに加え、障害者と健常者、簡単に二分できない状況もあります。

**岸上** 少し極端な話ですが、交通事故で右脚を切断する事態になってしまったとき、「それは身体障害ですね」「そうやね」ってことはある。そこに気を回しすぎたり、隠したりするのはおかしさが生まれてしまうので、その明確さは確かに「ある」でいい。一方で、少しずつ法整備や情報の蓄積が進むなか、障害者に限らず多様な人の存在も、あらわになってきている。そこで生じる「区分」は、あくまでも仮で、みんなが生きやすい社会を作るための手段でしかない。「私とあなたは関係ない」と溝を広げたり、「違うから関わらなくて良い」と知ることを放棄する口実ではないですよ。何で知らないんだ！って怒る人、「自分には関係ないんだ！って正

